

## 令和2年度 霧島市食育推進検討委員会 会要旨

開催日時	令和2年11月17日（火） 14:00～15:30		
開催場所	国分シビックセンター公民館 3階 大研修室		
出席委員	柏原委員、黒崎委員、岡村委員、千葉委員、川野委員、中村委員 外山委員、有村委員、安留委員、松田委員、隈元委員		
事務局	<p>【健康増進課】小松課長、吉村健康づくり推進グループ長、溝口主査、安田主事</p> <p>【すこやか保健センター】島木所長、上小園地域保健第2グループ長、徳重地域保健第1グループ主査</p> <p>【学校給食課】堀ノ内課長、竹下グループ長</p> <p>【農政畜産課】淵ノ上農政第1グループ長、市来主査</p>		
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0人
<b>議事</b>	<p>(1) 健康きりしま21（第3次）計画【健康づくり分野】栄養・食生活改善と食育推進（食育推進計画）の進捗状況と取組みについて</p> <p>(2) その他</p>		
<b>協議結果等の概要</b>	<b>委</b> ：委員	<b>事</b> ：事務局	
	<p>(1) 健康きりしま21（第3次）計画【健康づくり分野】栄養・食生活改善と食育推進（食育推進計画）の進捗状況について</p> <p>⇒ 事務局が資料に沿って説明。委員からの主な質問は次のとおり。</p> <p><b>委</b>：協議に入っていきたいと思う。今、説明を聞いていて市が体系的に、この委員会を含む、いろんな機関を通じて、市民全体の健康生きがいがいづくりに向けてというところで取り組んでいく組織構造。本委員会が担っている食育をメインとしたいろいろな活動については、子供たちの朝食摂取状況、肥満度など、それぞれの数値については、課題が大きくなってきているという状況の報告でしたが、本校でも、早寝早起朝ごはんは、家庭教育学級やPTAの方でも取り上げているが、価値感の違いと、学校は家庭のことに余計な口出しをしないでくれと一蹴される家庭も増えてきている。そういったところでどう連携をとっていくか、虐待も含めて、子育て支援課とも連携をとりながら朝ごはんを食べたくても食べれない子供たちへの支援というの、学校での喫緊の課題になっている。それぞれ、団体から代表として、集まっているので、各委員それぞれの立場から、説明のあった取組内容、そして、コロナ禍の中で、今後、どのようなことが、必要になってくるか、団体としてどんなことを考えていらっしゃるかなど、ご意見をいただければと思う。</p> <p><b>委</b>：この資料について質問です。この会は総合的計画的進捗状況について意見を聴取る会であるが、進捗状況のデータが明確に示されているのが2つ、8つの項目の中で、参考資料があるものが4つ、参考図表の無いものが2つではどう評価しているのかわからない。</p> <p>例えば、資料の6ページ、個別目標の1の4つの項目のうち「朝食を毎日食べる子供の割合」については、88.1%と出ているが、主食主菜副菜そろえたという項目は、国の調査になっている。国の状況を頭に入れる必要があると思うが、霧島市のこと</p>		

を、念頭に置いて日々活動しているので、データが参考になるのか。

例えば7ページにあるように、健康福祉まつりの、来場者に対する食育アンケートなどのように、対象者が違っていても、直接霧島市の方々がどう行動しているという資料があると非常にありがたい。これを見ると、健康まつりに来ている方は結構意識が高いことがわかる。健康福祉まつりの重要性が現れると思う。

それから、11ページの「地産地消を推進する」の中で、項目の2番目の「農林水産業に活気があると思う市民の割合」については、霧島市の今年度のデータはない。私達は日々それぞれの活動拠点の中で、対象者の違いながらも、こういったことを増やすために活動しているので、今の状態がわからなければ、やっていることの効果があるのか無いのか、どういったところに力を入れなければいけないのかが、はっきりわからない。健康福祉まつりでも、こういった点について、アンケートに項目を加えるだけで、その状況がわかるのではないかと思う。

それから12ページの、項目の2番目の「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を継承している若い世代の割合」ですが、重点的な取組でもあり、第三次食育推進計画でも、ここが大きくクローズアップされている。

国の資料はあるが、市のデータがないので活動の指標がなかなか難しい。

私達がやっている主催事業で、参加している方にアンケートをとったところ、「地産地消を実践していますか」では、約9割の方が実践していると答えている。また、「家庭や地域で受け継がれている伝統的な料理を継承していますか」は、年代は若い世代ではないが、全体として約8割の方が継承していると答えているので、是非、市の色々な事業等で細かなアンケートをとって、全体的なデータがなくても、やっていることの効果があるかどうかというようなアンケートの取り方の工夫をお願いします。

**委**：事務局の方でも受けとめてください。健康福祉まつりの今年度については、ブースとかは出来ないということで、講演会ぐらいの規模の開催という形だと、その会の委員として聞いているが、もろもろの機会をしっかりととらえて、この霧島市そのものの実態を把握する工夫を、やはり充実させていく必要がある。データなしでは、評価ができないのではないかという、貴重なご意見です。

特に、今こんな事を考えているという事務局の方からありましたらまた後で。

学校は、家庭教育学級生の意識の高い方々が集まっている学校と強制的に家庭教育学級生として、他学年の保護者を一律して家庭教育学級を実施している所もあると思うが、そのような学習の場で食を扱った場合には、必ずこの関連するアンケートに答えていただくとか。抽出のアンケートの方法、手段というのは、幅を広げれば、可能性としては、いくつか出てくるのではないかと思う。

今の件については終了します。

**委**：私もデータがないところで検討してくださいっていうのはちょっとおかしいと思う。人が集まる機会があるので、気を配りながら、データ取るということができると思うので、ぜひそのようにしていただきたい。

7ページの、「朝食を毎日食べる小学生の割合」ということで、本市のデータが88.1%で、あと11.9%、残りの子供たちは食べていないと解釈すればよいのか。

国が出しているのは、「朝食を欠食する」のが4.6%となっている、その4.6%の項目は「全く食べない」と「あまり食べていない」の二つの項目で、「食べていない」の4.6%になっているが、アンケートの取り方により、「食べている」と「食べてい

ない」の境をどこで区切るかで、全く数値が変わってくるので、分かっていたら教えてほしい。

参考図表5で「食べている」「食べてない」が、県とか国とかと比較しているが、朝御飯を「食べている」「食べていない」だけの調査ではなく、国が今言っているのは、朝食を食べていない子供は、親も食べない習慣だとか、早く寝て早く起きている子どもは、しっかり食べているとか、調査をするときにはそういう項目も加えて、クロス集計をすると、はっきり分かるのではないかなと思う。

地産地消のところで、地産地消に子供たちが関心を示すのは、農林水産業の体験というのが非常に大きいことですが、霧島市内の小中学校は、何校中何校が、学校にいる間のどこかの学年で1回すればいいと思うが、この体験活動をしているのか。地場産物を使用する割合について、県の平均は令和元年度で69.1%、魚と肉は80%を超える比率になっている、芋や野菜が64%ということで非常に低い。使おうと思えば、霧島産野菜とかたくさんあるので、そういうところに、もっと力を入れて、こういうものがあるというような売り込みをしていただきたい。

今更の質問でちょっと悪いが、学校給食における県内産を使用する割合が65%、令和4年度の目標になっているが、県の目標は、令和2年度で70%以上となっている。なぜ、いっぱい色々なものがあるのに霧島市は65%という低い目標値になっているのか。これを、給食課の方にお伺いしたい。

**委**：実態調査の取り方の信憑性正確性を高めることについて、特に朝食の摂取状況については、全国があつてのデータから来ていると思うが、「ほとんど食べない」と「毎日食べないの」割合であるが、先ほどご指摘あったように、食べない日がある、時々食べない等この選択肢をどこまで拾うかで、この数値は変わってくる可能性があるということで、統一された見解の中で、実態論でいくという線も今後また明確にしていく必要があると感じた。

農林水産体験の各学校での取組状況の把握はされているのか。地産地消、「鹿児島を丸ごと味わう」などもあるが、市内産県内産のものを、さらに多くとるような目標値に設定できるのではないだろうか、現状としてどうなのかという質問でした。

**事**：子供たちの食育関係での、農業体験ですが、こちらでは把握していない。各学校の単独校に栄養士がいる場合はその学校の中で、給食センターに栄養士がいる場合は、受配校に栄養士が赴き、食育の研修等指導等しているが、その内容までは把握していない。もち帰り調査する。

この目標数値65%ですが、計画書を作る段階が60%以下であり、毎年1%伸ばし、5年間で目標値だと思う。

地産地消の関係につきましては、給食センターでは、隼人と溝辺のセンターが、地元の農家さんの団体を納入業者として指名しており、毎月翌月の献立ができた段階で、団体の方と協議をいたしまして、いついつ、この食材をどのくらい納入できるかというような話し合をして、納入してもらっているところである。

他のセンターについては物産館や特産品協会など、そのようなところから納入してもらっている。

**委**：追加で農林水産業の体験活動というのは、県の毎年学校教育課が拾い上げるので、学校教育課の方では、多分わかっているはずだと思う。

ちなみに鹿児島県は、721校中688校が、学校の計画の中に入れて実施している。地産地消で学校給食課の方にお願ひですが、行政が主になって納入団体を立ち上げ

て、そして学校の使う人たちと1回話をさせていただいて、こういうふうな取組ができないかという事を検討してくださいとお願いしているが、どのように検討されているか。

**事**：昨年度から、平成17年11月7日に、合併しましたので、11月7日を「いいなの日」として、地元産の食材を取り入れた給食を作りましょう。提供しましょうとして、献立表や給食だよりに「いいなの日」のPRをしましょう。」というような活動をメインで、PR課が行っています。今年度これを行うに当たり協議を行ったが、今後は、PR課と農政畜産課、それと学校給食課の3課で協議を行い、地元産をどの様にして取り入れるか、また、地元産の特産物がどのようなものがあるということ等もPRしていかなければいけないということで、今PR課の方で、この3者の協議を計画しているところである。

**委**：11月7日の「いいなの日」で、学校給食で何かを使うというのは非常にいいものだと思うが、イベント的なものである。それをちょっと検討されて、組織を立ち上げるというように今お聞きしたが、それでよいか。

**事**：いえ、組織を立ち上げるのではなくて、一応、それを今年度計画というか、協議していく中で、地元産のPRなり、それをまた学校給食課でどのようにしていくかということ、まず三課の中で集まって、協議をする場を作ろうということである。

**委**：期待しているのでよろしく願います。

**委**：おそらく食材の確保という意味では、安心、安全、安定というところが、非常にクリアしないといけない課題が多いかと思うが、ぜひ、県産市内産、そういった団体と長く提携できて、総体として給食が充実するように、同じ給食費の中でよろしくお願ひしたい。本校もサツマイモ栽培など2年生がやっているが、小さい学校だとそばづくり体験とか、稲作体験とか、全校で取り組んでいる学校もある。学校教育課に確認して把握されるとほとんどの学校が、何らかの形でやっていると思うが、本校も国分中央高校さんの手伝いをもって、一緒に学習させてもらっているが、もっと拡大できないか、どんどんしりすぼみになっていっているような感覚がある。土地がない、時間がない、今回コロナもあってというところである。もう一回改めて見直す必要があるなと私も感じた。

関連して何かないか。

**委**：PTA代表ということで、お母さんの立場で構わないが、家族みんなで食事をとることの難しさ、或いは大事さみたいところが、いろんなところで話題になったりした。いろんな個食というのもあるが、何か意見はないか。

**委**：受験生が抱えている身として、塾に通うという場合、家族揃っての食事がなかなか難しくなっていると感じている。小学生のお子さんでも、早いうちから塾に通っているおさんは、先に1人で弁当を食べて夕食を済ませたり、コンビニで買ったもので済ませたり、夜遅く帰ってきてまた食べるという、私達が理想とする生活パターンと、子供たちの学力向上の場合を照らし合わせた時の生活パターンが違う。母親としても、健康的な生活を送ってほしいので早寝早起きはさせたいと思うところと、それによって学力の低下もやっぱり気になるというところの兼ね合いがすごく難しい。なので、出来るだけ自分で作った食事を食べさせようという努力はするが、同じ時間で家族揃ってとなると、父親の不在とかもあったりするので、なかなか難しいと感じている。

**委**：ありがとうございます。生の声ですね。おそらくそういう家庭が増えていると思う

が、だからこそ、週末のこの日はみんなで伝統的な食文化に、家族みんなで触れ合おうというみたいなのところが、すごく意義が出てくるという気がする。

今、本校はメディアとの課題を今年度PTAの課題に挙げている。

やはり、夜中スマホでゲームをしてなかなか寝ない、寝たふりをしてゲームをしている。それで、朝起きたら、もう食欲がない。或いは親がゲームにはまっていて、朝、子供が学校に行くまでに親が起きてこないところもある。

色々な課題があるので、色々なところと連携しながら、意識の高い方々を、大いに盛り上げていくことの方が、意識のない人たちを無理やり引っ張っていくことよりも、効果があるのかなという気がする。

他、こんな取組を、うちではやっている、或いはこう言うことはどうかなどないか。

**委**：子供たちに自分たちでおにぎりを作るっていうのを、取り組んだらどうかっていう取組である。コロナの関係で、学校が休みで、自宅や学校の方で学習する子供たちに、紙コップで作るシャカシャカおにぎりを作ってもらうというものである。とにかくお米さえどうにか炊ければ、子供でもおにぎりができる。ふりかけでもあれば子供たちも自分たちで作ることが出来るということで、そのような取組をしている。もちろん大人が作っていただければ一番良いが、まずは親子でとか、というかたちを作っている。今回件数をちょっと忘れたが、そういう形で行った。

南日本新聞の方も取材に来られて、親御さんからも、簡単だったっていうことでした。すごく簡単なレシピというか、紙コップを二つ使って振るだけなので、そんなものでも出きる事を知ってさえいれば、子供たちも自分で食べる。先ほど言ったように、親が居なかったりとか、朝起きて来なかったりとか、夜勤の方もいるとかもあるので、ちょっと取り組んだ。もう一つはうちの農協では、第2金曜日を、「おにぎり大作戦」という取組をしていて、もう3~4年ずっと行っている。

PRが足りないところもあるが、第2金曜日におにぎり食べましょう、地元の物を食べましょうということで動いている。

おにぎりだけを食えると言うのではなくて、おにぎりを食べることによって地元にある野菜や、鹿児島県産のものを子供たちも含めて、親も一緒に、地元のものを、農家の方のことをちょっと考えて、食に触れてもらうという取組をしている。

農協のホームページとかフェイスブック、ラインでも情報を載せているので、いろいろPRをできればと思う。何かありましたらまたよろしく願いたい。

**委**：貴重な活動報告ありがとうございました。たくさん子供たちが直に知ること、親が知るとはとても大切なと感じた。貴重な体験をした子供たちはもちろん意識が高まっているし、保護者の方も意識が高まっている。それが他のまだそういうことがあるということすら知らない子供たちが、1人でもたくさん体験出来ること、知ることができればと思う。

限られた時間の中で、あまりたくさんもう時間がなくなってきた。「これだけは」という事はないか。

**委**：PTAの方の話で、なかなか家族一緒に食べる時間っていうのは現状的には難しいと思った。1週間に1回は家族揃って食べられるようにしましょうということから取り組むとしやすいのかなと思った。私達の方の活動についてお話をさせていただきたい。

私たちは、毎年国分小学校の3年生を対象に、手作り豆腐づくりの指導を2日間にわたってやっている。例年11月ですが、コロナ禍の中で、来年の2月実施するとい

うことになっている。

アンケートの問題も出たが、私たちが積極的にアンケート回収も協力しなくてはいけないなと強く感じた。

またスキルアップ事業という若者世代を対象にした事業ですが、今年度、コロナ禍で、子供、学生を集めて実施するのはちょっと難しいということで、国分中央高校に出向き事業を実施させてもらうことで、お願いし協力もらえた。その中でも朝食の大切さとか伝統料理とかいろいろなことについてアンケートをすること、情報交換をすることなど協力ができると思う。

私たちが高齢者を対象に、防災、非常食の関係で、高齢者が集まっているところに出向き、ポリ袋を使って非常食作りをデモンストレーションしている。10分ぐらいでご飯の炊き方やお菓子の作り方を教えている状況だが、すごく喜ばれている。災害の時ライフラインがストップするなかで、できることを説明しているが、これをまた子供たちに、伝えていくことがすごく必要じゃないかなということも感じているので、地域の方に出向いて活動を進めていきたいと思う。

委：コロナ禍の中でも、時期を変えたり、対象を変えたりしながら、豆腐づくり事業もスキルアップ事業も計画通り、ぜひ実施を順次して欲しい。

またアンケート等についてもぜひご協力をということで、各団体持ち帰り、意識化を図っていければと思う。

事務局の方でも対応をよろしくお願いしたい。

委：保育協議会から、本協議会は32園ほどの団体がある。

また幼稚園とも連携をしている。保護者支援、それから保護者への啓発ということで、各施設保護者会を通じて、食育に対して研修をしている。

先程スマホのこともあったが、そういうことも含めて啓発をしている。

どの園も食生活アンケートをとっており、個食になっていないかとか、朝御飯は誰と食べているか、起きてからどのぐらいの時間で食べているか、睡眠についてなど各園どこもとっている。そういったことも、含めて連携ができれば、また充実したものになるのではないかなと思っている。

食育体験としては、各園それぞれ特色のある食育を行っていて、畑を作ったり、ジャムを作ったり、農作物を育ててそれを給食に出したり、色々な食育を行っている。先程出たおにぎり体験ですとか、いろんな活動を保育園、幼稚園いろいろな方面、農協さんとも連携できたらと思った。活動の案内になるが、そういうことも含めて保育園、幼稚園とも大きな渦、連携をやっていかれたらと思う。

委：委員会として各自されている活動をお互いがしっかりと知り合うことができた。

三つ子の魂100までです。いろんな絡みで、文化は変わってきて価値も変わってくるが、この食の大切さということ、また食文化ということについては、お互い意識を高く持って、課題をしっかりとらえながら、それぞれの場面で、活動を頑張っていたらと思う。

事務局におかれてはそのサポートや指示をよろしくお願いしたい。

では、協議1を終了して、協議2の方に移る。

## (2) その他について

事：事務局の方からは特にないが、保健所から説明をしていただきたいことがあるので願います。

委：お配りした「STOP!脳卒中」リーフレットは、昨日県より届きました。まずは

予防ということで、まず予防あなたと家族のためにとということで、鹿児島県は、全国平均の1.3倍脳卒中が多く、年齢調整をした標準化死亡比SMRでは、全国平均の1.1倍高くなっている。

脳卒中の予防のためにも、食塩を減らす、野菜をたっぷり、禁煙・節酒、運動習慣。そして、病態的には、高血圧、脳卒中、脂質異常、メタボリックシンドローム関係、そしてもし気がついたときには、裏側をみてください。

症状があった場合、「Face」「Arm」「Speech」「Time」顔のマヒ、腕があがらないとか、ろれつが回らないときには、時間を何時何分と記録をして即救急車を呼んでいただきたい。もしかして脳卒中ということを知っていただければ、救命率が上昇するのではないかと思う。

健康寿命を延ばすためには、プラス15分で1500歩足しましょうということと最近、フレイル（虚弱）、お口の方もフレイルということで、噛めない、むせるとか、それから誤嚥性肺炎のリスクにもなるので、口腔ケア。

そしてよく噛んで食べることで、朝御飯を食べましょう。でも、飲み込むように早く食べては、身体に良くないので、ゆっくりよく噛んで食べるということ。

これに書いてあるので、良く読んで活用ください。

資料は配りませんでした。今年4月から、飲食店、それからオフィス、それから講堂とかは、2020年4月より原則屋内禁煙となっています。学校、病院、行政機関は、2019年7月から敷地内禁煙となっています。

喫煙室を設けているところは、喫煙室、喫煙専用室とか、看板をつけることが義務化になっています。今年4月1日から開業する飲食店は原則屋内禁煙となっています。それよりも前に開業しているところは、喫煙専用室がある届け出をしないとなくなっています。

それともう一つ、今年4月1日から、消費者庁の食品表示企画課の方の栄養成分表示が、4月1日から義務化になっています。

ここにゼリーの図がありますが、以前の表示はナトリウムとかでしたが、今の成分表示では、熱量、タンパク質、炭水化物、食塩相当量、ということでこの5項目は必ず表記することとなっています。

食品を購入する時に、塩分やエネルギーを参考にして、購入していただきたい。

それから、文部科学省では食品成分表の8訂が近く公表されますので、参考にしていただきたい。

**委**：ありがとうございました。勉強になりました。気をつけます。

**事**：先程紹介した、こちらのレシピのリーフレットは、酢がめちゃんと食改さんのおすすめということで、掲載しているメニューは、食改の方からいろいろメニューを出していただいて、作ったものである。

今年度の計画では、中学生に料理教室で作ってもらい料理の写真を撮影するという形にしたかったが、コロナのために実施出来なかった。

小学校5、6年生に家庭科の授業の副教材とか、冬休みとかちょっと長いお休みの時に、おうちで作ってもらおうということで、学校の方に配布するので、活用をよろしく願います。

会議資料	<p>【配布資料】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○会次第</li><li>○霧島市健康・生きがいづくり推進における各種委員会の設置に関する要綱</li><li>○霧島市附属機関等の会議の公開に関する指針</li><li>○健康・生きがい作り推進の組織体制図</li><li>○健康きりしま 21（第3次）計画健康づくり分野 栄養・食生活改善と食育推進（食育推進計画）の個別目標の近似値資料</li><li>○令和元年度の各課の栄養・食生活改善と食育推進分野の主な事業と取組実績・令和2年度の取組・計画について</li><li>○食育推進リーフレット（酢がめちゃんと食改さんのおすすめ）郷土の食材を使ったレシピ</li><li>○令和元年度地域での食育の推進事業報告書</li><li>○栄養成分表示について（県資料）</li><li>○STOP！脳卒中リーフレット（県資料）</li></ul>
------	---